



あっさり黙示録 #34

大艱難時代の舞台裏

—黙示録最短の章が示す最深のメッセージ—

黙示録 15 章

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



お元気ですか。高原剛一郎です。皆さんは、先日行われた安倍元総理の国葬中継をご覧になったでしょうか。私は見ました。特に心を打たれたのは、友人代表として弔辞を読んだ菅元総理の弔文です。あれは役人が書いた文章ではありませんね。ご本人がお書きになったんです。心で書いた文章は心に届きますね。

心で呼びかけができた、心情を綴ることができたのは、日本と日本人を世界の真ん中で咲き誇らせるために、安倍長期政権で、総理大臣の女房役である官房長官をずっと務め、苦楽を共にして来た菅元総理だったからです。同志の絆を改めて感じました。私も日本と日本人の心に福音の花が咲き誇るために、僅かな力ですがベストを尽くして行きたいと思っています。これからも、どうぞよろしくお願いします。

少しご案内があります。先日、私の著書『コスモスの花のように』をご案内したのですが、「買い方が分からない。」「本屋に行ったけど、そんなものはないと言われた」というお問合せが来ております。大変失礼いたしました。出版社にも在庫ゼロというか絶版なんです。著者である私の手元に数十部あるだけです。私は個人としてアマゾンに出品しているので、購入ご希望の方はアマゾンで検索してください。紙の本と電子図書 (Kindle) があります。Kindle は海外でも購入できますので、よろしければご活用下さい。

さて、今日はあっさり黙示録の 34 回目、黙示録 15 章です。これは黙示録全体の中で一番短い章なので、今日 1 回でこの章全部を解説します。

15 章はいよいよ艱難時代後半の、その後半のクライマックス、7つの鉢による大災害。それが降り降ろされる、ぶちまけられる直前に、ヨハネは天に 2 つの幻が描かれているのを見ます。1 つは、反キリストに迫害された殉教者たちが、天で楽器をかき鳴らしながら賛美を歌っている幻。もう 1 つは、天の神殿が立ち入り禁止状態になっている。これは何を意味するのか。

大体こんな内容だということを頭に入れて、3つのポイントをお話します。
①神が究極の裁きを下す理由。②殉教者が天国で歌うことができている理由。③天国の真の神殿が立ち入り禁止になっている理由。この3つのポイントについて考えましょう。

1) 神が究極の裁き (7つの鉢) を下す理由

黙示録 15 章

1 また私は、天にもう一つの大きな驚くべきしるしを見た。
七人の御使いが、最後の七つの災害を携えていた。ここに神の憤りは極まるのである。

神の極限の怒りの裁きが7つの鉢に分けられて、やがてぶちまけられようとしている。それはどこで決定されたのか。天にもう一つの大きな驚くべきしるしを見た。天なのです。つまり、世界に裁きを下す最終的決定権・権威は天にあるということです。地上では不正がまかり通ったまま、何も変化がないように見えるかもしれませんが、神はチャンスを与えるために忍耐しています。しかし、「もうこれ以上の先延ばしはない」という時が来るんですね。天で7つの裁きが決定した。だけど、なぜ極まった神の怒りの徹底的な裁きが下されるのでしょうか。

2 私は、火が混じった、ガラスの海のようなものを見た。これは至聖所の様子です。**獣とその像とその名を示す数字に打ち勝った人々（殉教者たち）が、神の竖琴を手にしてガラスの海のほとりに立っていた。**

キリストを信じたために殉教した人々は3つのものと戦っていました。

①**獣**。反キリスト。反キリストの政治的支配。

②**その像**。反キリストの姿に造られた偶像。エルサレムに再建された第3神殿に安置される像。それを拝まない人はみな殺されました。宗教的支配。

③**その名を示す数字**。反キリストのヘブライ語の名前を数字に換算すると666。

666を身体に刻印していない人は誰も、売ることも買うこともできなくした。経済的支配。

1人の人物が政治的支配・宗教的支配・経済的支配の3つを完全独占するので、抗うことはだれもできない状態です。しかしそんな状況の中、大勢の人々がイエス・キリストを信じ、反キリストが悪魔的人物であることを見抜くんですね。水も漏らさぬコントロール体制の中で、なぜ彼らは反キリストを見破り、イエス・キリストを信じることができたのでしょうか。

当時、福音を聞いていない人はだれもいないからです。144,000人のユダヤ人伝道者が全世界に出て行って、「間もなくこの時代は終わりますよ。独裁者として威張っているあの人物は反キリストです」と見事に紹介し、イエス・キリストこそ救い主であることを宣べ伝えてくれるんです。それだけでなく、御使いが永遠の福音を、その時代に生きているすべての人々に伝えます。なので、反キリストが支配している時代、福音を聞いたことがないという人はだれもいないのです。

すべての人が反キリストは悪魔的存在だと知り、イエス・キリストにしか救いの道はないことを情報としては知っている。にも拘らず、反キリストを選び取った人たちが世界を形成して行くのです。つまり、救いのチャンスが与えられ、忍耐され、猶予期間を与えられたけど、意識的に反キリストを選ぶことによって、キリストを信じた多くの人たちを死に追いやって行くんです。その世界に対して、神は遂に7つの鉢の裁きを下します。これが神が裁く理由です。

2) 殉教者が天国で歌う理由

3 彼らは神のしもべモーセの歌と子羊の歌を歌った。

「主よ、全能者なる神よ。あなたのみわざは偉大で、驚くべきものです。諸国の民の王よ。あなたの道は正しく真実です。

4・・・あなたの正しいさばきが明らかにされたからです。」

①**モーセの歌**はユダヤ人がエジプトから脱出した時に歌った歌。出エジプト記15章に出て来ます。ご自分でも調べてみてください。

②子羊の歌は「主よ、全能者なる神よ。あなたのみわざは偉大で、驚くべきものです。諸国の民の王よ。あなたの道は正しく真実です。」

主よ、全能者なる神よ。諸国の民の王よ。これはイエス・キリストのことです。キリストに向かって言っているのは「あなたの道は正しく真実です。」

クリスチャンでも信仰生活を歩む中で、なぜこんな事が起こったのか、どんなに考えても分からない出来事があるんですね。信仰者だから信仰的に解釈しますが、それでもよく分からない。

なぜこんな事になったのか、不可解なままで終わっている。

ただ、神は真実な方だと信頼して、答えは分からないけど、それをゴクンと飲み込んでいることがあるんですが、あなたの道は正しく真実です。

つまり、真相がすべて明らかになり、実感を込めて「あなたの道は正しく真実です」と言うことが出来ているんですね。

道は複数形です。キリストは私の人生の中で様々なことをしてくださった。

その様々な道・様々な方法・様々な導きは全部、善きことに繋がっていて正しかった。

その種明かし、全貌が明らかになり腑に落ちるのは、天国に行ってからだと言うのです。

それが分かった時、「本当にキリストは間違いのない方だった」と実感し、それが思わず歌になっているんです。4節の最後にも「あなたの正しいさばきが明らかにされたからです。」

このように、人生の不可解の謎が全部解ける世界、それが天国。それが分かった時、ただただ神を賛美せずにはおれなくなっている。これが、殉教者が天国で歌っている理由です。

3) 天国の真の神殿が立ち入り禁止になっている理由

5 その後、私は見た。天にある、あかしの幕屋である神殿が開かれた。

今まで地上には2つの神殿がありました。ソロモンの神殿と第2神殿。

神殿が造られた理由の1つは、天国がどんなところかを示すための視聴覚教材です。

神殿の一番奥の間が聖所。聖所の奥の間、最高の奥の間が至聖所（しせいじよ）です。

聖所や至聖所はギリシア語でナオス。

その後、私は見た。天にある、あかしの幕屋である神殿が開かれた。

神殿と訳されている言葉はナオスなんです。つまり、聖所が開かれた。

6 そして七人の御使いが、七つの災害を携えて神殿（ナオス/聖所）から出て来た。

7 また、四つの生き物の一つが、七人の御使いたちに七つの金の鉢を渡したが、それには世々限りなく生きておられる神の憤りが満ちていた。

七つの金の鉢。これが黙示録16章に出て来る7つの鉢の憤りです。恐るべき裁きの内容です。それは次回やります。

七人の御使いたちに七つの金の鉢を渡した瞬間、あることが起こります。

8 神殿（ナオス/聖所）は、神の栄光とその御力から立ち上る煙で満たされ、七人の御使いたちの七つの災害が終わるまでは、だれもその神殿（ナオス/聖所）に入ることができなかった。

7人の御使いに金の鉢が渡されるや否や、神殿（聖所）に煙が立ち込めてスモークの壁が出来上がり、だれもそこに入ることができなかった。立ち入り禁止の状態になった。これは何を意味するのでしょうか。

聖所や至聖所は神の臨在を示す場所ですが、そこには1つ役割がありました。

祭司が出向いて、神に執り成しをする場所でもあったのです。

「わが民は罪深いものです。しかし神よ。どうぞ猶予してやってください。チャンスを与えてやってください。赦してやってください。」赦しの祈り・執り成しの祈りをする場所だったんですね。

そこが立ち入り禁止になるということは、執り成すことすらできなくなるということ。

7つの災害が下される期間・もはやだれも神に執り成すことができない時代、それは一刻の猶予もなく、先延ばしにされることはいということ。神は今までずいぶん忍耐して待っておられました。

しかし、「罪だ」と聖書の言葉で糾弾しても、実際の裁きが下らない場合、人々はそれを侮るんですね。

2016年、フィリピンが中国の船のことを15項目にわたって訴えました。

「中国がフィリピンの領海を勝手に埋め立てて人口島を造り、そこを起点にして領海を主張し、フィリピンのEEZに勝手に入り込み、軍艦を並べたりしてフィリピンの漁師たちを脅かしている。これは国際法違反だ。」

その結果、15項目中1項目を除く14項目で「フィリピンの言うことが正しい。中国は間違っている。中国が現在やっていることは国際法違反である」と、国際司法裁判所の正式な判決が出たんです。

その時、中国は何と言いましたか。ひと言で言うと「はあ？」これだけ。

「それで？」「だから？」「いったい何なの？」蛙の面に小便（かえるのつらにシオンベン）なんですよ。

国際司法裁判所は“どちらが正しいか・間違っているか”の裁定を下すことはできますが、裁定に基づく強制執行の力はないんです。「アンタが間違ってる。国際法違反だよ」と言うのは言うけど、国際法を守らせるための強制力を発揮することは一切ありません。

なので、中国にとっては紙切れ1枚。負け犬の遠吠えみたいなものなんですね。

裁きの実行が伴わないなら、それは意味がないんです。

パスカルは『パンセ』の中でこう言ってます。

「正義の無い力は暴力で無能だ。しかし同時に、力の無い正義も無能である。」実行力がないから。

神は力が伴う正義の実行を、黙示録で預言した艱難時代に発揮されるんですね。

この警告を聞いて、恐怖に感じるのは神に反逆する立場に立つ人。

慰めを感じるのは、神に立ち返って神と和解した人です。

今まで聖書預言を解説して来ましたが、皆さん、いかがでしょうか。

聖書預言はデタラメな話ではありません。本当にことごとく実現して来たのです。

もし聖書の真実を信じたならば、ぜひイエス・キリストを通して神と和解なさってください。

心からお勧めします。

ではまた お目にかかりましょう。皆さん、お元気でいてください。さよなら。

☆使用した聖書は「聖書 新改訳 2017」です。